

# 大学院特別講義のご案内

- 日時： 令和3年1月29日（金） 18:00～19:30
- 場所： D棟4階 第3講義室（リアルタイム講義：講義室大型モニターに投影）
- 講師： 日本大学歯学部生理学講座 特任教授 岩田 幸一先生
- 演題： 「神経障害性疼痛に対する非神経細胞の役割」
- 要旨： 三叉神経が傷害されると口腔顔面領域にアロディニアや痛覚過敏と呼ばれる強い病的疼痛が惹起される。三叉神経の損傷は損傷神経に対して高頻度の損傷電位を引き起こす。それに引き続いて三叉神経節細胞にも異常な興奮が誘導され、一次ニューロンは感作され、興奮性はさらに亢進する。三叉神経節細胞の異常興奮は三叉神経脊髄路核（Vc）および上部頸髄（C1/C2）ニューロン伝えられ、それぞれの領域に存在する侵害受容性ニューロンの興奮性が異常に亢進し、二次ニューロンは感作される。一次ニューロンおよび二次ニューロンに誘導された興奮性増強はさらに上位中枢に伝えられ、口腔顔面領域に病的な痛みが惹起される。この様な一連の過程におけるニューロンの興奮性亢進に対して、三叉神経節においては非神経細胞であるサテライトグリア細胞やマクロファージ、VcやC1/C2ではミクログリア、アストロサイトおよびマクロファージが誘導、活性化されてサイトカインをはじめとする様々な物質の合成と分泌が誘導され、ニューロン活動に強い興奮性亢進が引き起こされる。本セミナーでは、ニューロンと非神経細胞との機能関連に焦点を絞り、三叉神経損傷後に、口腔顔面領域に誘導される神経障害性疼痛に関する研究データを紹介し、その発症機構に関して議論を深めたい。



問い合わせ先：口腔生理学教室 加藤隆史（2882）

\* “口の難病セミナー” を兼ねます。

# 大学院特別講義のご案内

日時：2021年3月30日（火） 17：30～19：00

場所：記念会館2階 多目的ホール ※先着50名

講師：遠藤 誠之 先生

（大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 生命育成看護科学 教授  
大阪大学医学部附属病院 胎児診断治療センター 副センター長）

演題：「胎児治療：その光と影」

要旨：

出生前診断技術の目覚ましい発展によって、出生前から詳細な胎児の評価ができるようになりました。それに伴って様々な疾患の成り立ちが、理解されるようになり、疾患の有無だけではなく、疾患の重症度やその予後評価などへも応用されています。

このように、生まれる前から胎児のもつ疾患への理解が深まることにより、出生直後からの治療方針を、出生する前から組み立てることができるようになりました。さらに出生後に有効な治療方法のなかった疾患に対しても、胎児期に治療する、「胎児治療」を行うことで、治療効果を得ることができるようになってきています。

その一方で、出生前診断によって胎児に疾患があることが判明したことで、「妊娠を継続するかどうか？」「胎児治療をするかどうか？」「出生後に児への愛着をもてるのかどうか？」など、新たな葛藤も生み出しています。

今回の講演では、そのような「出生前診断」「胎児治療」についていろいろな側面からお話させていただきます。

※口の難病セミナーを兼ねます

問い合わせ先：口腔外科学第一教室（2936）